肝胆膵・移植外科 Hepato-Biliary-Pancreatic and Transplant Surgery

質・量ともに日本をリードする肝胆膵・移植外科

肝臓・胆道・膵臓領域の良性・悪性疾患に対し、積極的に外科的治療や化学療法、IVRを行っています。移植医療としては、肝臓移植、小腸移植、膵島移植を行っています。患者さん本位のチーム医療を心がけています。

診療体制

上本伸二教授以下約30名の医師が診療に従事しています。当科では、全医師が肝胆膵・移植領域のgeneralistとなるべく、臓器別ではなく5つのグループに分かれて全領域の疾患を担当しています。また、消化器内科、放射線科、疾患栄養治療部等と定期的にカンファレンスを持ち、チーム医療を推進しています。

対象疾患

肝胆膵外科としては、肝癌（肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌）、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、膵管内乳頭腫瘍などの悪性腫瘍や、胆石症、肝内結石症などの良性腫瘍。移植外科としては、肝硬変、肝細胞癌、原発性胆汁性肝硬変、胆道閉鎖症、代謝性疾患、劇症肝炎、短腸症候群、Ⅰ型糖尿病など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間の肝切除術約120例、膵切除術約80例、生体・脳死肝移植約70例、胆石症約50例など。生体脳死肝移植症例数、高難度肝胆膵外科手術症例数は、日本で最多です。

高度医療の取り組み・研究

①進行肝癌・膵癌に対する集学的治療
高度脈管侵襲を伴う肝癌や動脈・神経周囲浸潤を伴う膵癌に対し、積極的に術前化学療法や門脈枝塞栓術を施行し、また術後も肝動脈注入化学療法や補助療法を施行し、治療成績の向上に取り組んでいます。

②血液型不適合生体肝移植成績向上への取り組み
術前抗CD20抗体（リツキシマブ）投与や血漿交換、術後経門脈ステロイド投与などにより、血液型不適合症例に対する肝移植治療成績向上に取り組んでいます。

③Ⅰ型糖尿病に対する膵島移植
頻回に重篤な低血糖発作を起こすⅠ型糖尿病症例に対し、膵島移植による治療を行っています。また脳死膵臓移植に向けて準備中です。

小児外科 Pediatric Surgery

ヘルニアから肝移植・小腸移植まで幅広い小児外科診療

小児の消化管の病気、肝臓や胆道の病気、ヘルニア、呼吸に関係する病気、泌尿器の病気、悪性腫瘍を扱っています。肝移植を多く行い、小腸移植も行い、高度医療を安全にやさしく行っています。

診療体制

外来は現在、木曜日を中心に行っていますが、緊急の際には曜日を問わずに対応します。入院は北3階の小児病棟において診療を行っています。新生児はNICU（新生児集中治療部）で小児科と共に術前術後の管理を行っています。

対象疾患

消化管の病気（食道・十二指腸・小腸閉鎖症、直腸肛門奇形、腸回転異常症、短腸症候群、腸閉塞など）や肝臓・胆道の病気（胆道閉鎖症、肝硬変など）、ヘルニア（ソケイヘルニアなど）、呼吸器の病気（先天性横隔膜ヘルニア、肺分画症など）、泌尿器の病気（水腎症、膀胱尿管逆流症など）など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

ヘルニア手術36例、生体肝移植16例、脳死小腸移植2例、食道閉鎖症2例、胆道閉鎖症手術2例、鎖肛手術3例、腫瘍手術10例、新生児手術12例などが主なものです。

高度医療の取り組み・研究

①肝移植
生体肝移植と脳死肝移植を行っている。
最近の生存率は95%を超えている。

②小腸移植
短腸症候群や機能的腸疾患に起因する小腸不全患者に対して脳死小腸移植を行っている。

③先天性高インスリン血症に対する外科治療
先天性高インスリン血症における膵島過形成の部位診断を正確に行い、病変部を切除する。